

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年8月23日 火曜日

影響を受ける要素に設定された数値の合計を計算する

動的アクションのアクションには、**影響を受ける要素**というプロパティがあります。影響を受ける要素に複数のページ・アイテムを設定し、そのページ・アイテムが保持している値の合計を計算してみます。



ページの構成は以下になります。

ページ・アイテム **P1_ARG_1**、**P1_ARG_2**、**P1_ARG_3**、**P1_SUM**すべて、**タイプ**は**数値フィールド**です。合計を計算するボタン**B_CALC**を作成し、そのボタンをクリックしたときに動作するアクションとして、以下のJavaScriptを実行します。

```
// 影響を受ける要素として設定されているページ・アイテムの値を数値として、すべて配列に取り出す。
```

```
let args = this.affectedElements.toArray().map( elem => Number(elem.value) );
```

```
// 合計を計算する。
```

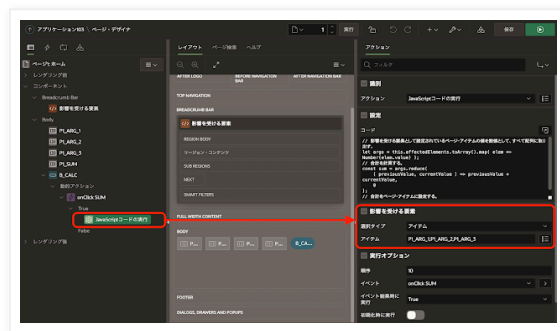
```
const sum = args.reduce(  
  ( previousValue, currentValue ) => previousValue + currentValue,  
  0
```

```
);
```

```
// 合計をページ・アイテムに設定する。
```

```
apex.items.P1_SUM.setValue(sum);
```

このとき、**TRUEアクション**である**JavaScriptコードの実行の影響を受ける要素**として、**選択タイプ**を**アイテム**、**アイテム**として**P1_ARG_1**、**P1_ARG_2**、**P1_ARG_3**を指定します。



TRUEアクションの影響を受ける要素は、**アクションが値の設定の場合は、値が設定される**ページ・アイテムを指定します。また、**リフレッシュの場合は、リフレッシュされる**リージョンを指定します。英語ではAffected Elementsなので、影響を受ける要素と翻訳されていますが、実際はthis.affectedElementsに渡される要素というだけで、どのように影響を受けるかはコードに依存し

ます。JavaScriptでコードを書く場合、this.affectedElementsをどのように扱うかは、コード中で決めることができます。

今回のように、必ずしもページ・アイテムP1_SUMを**影響を受ける要素**として指定する必要はなく、**影響を受ける要素**はJavaScriptのコードが書きやすくなるように指定できます。

以上です。

簡単ですが今回作成したAPEXアプリケーションのエクスポートを以下に置きました。
<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/sample-affected-elements.zip>

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 11:01

共有

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.